

F-056

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑥ 特許出願公開

⑦ 公開特許公報(A)

昭63-269509

⑧ Int.Cl.¹

識別記号

庁内整理番号

⑨ 公開 昭和63年(1988)11月7日

H 01 G 4/42

3 1 1

6751-5E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑩ 発明の名称 貫通形高圧コンデンサ

⑪ 特 願 昭62-104944

⑫ 出 願 昭62(1987)4月28日

⑬ 発 明 者 吉 野 裕 敏 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑭ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

⑮ 代 理 人 弁理士 森本 義弘

明 細 書

1. 発明の名称

貫通形高圧コンデンサ

2. 特許請求の範囲

1. 二つの電極間にプラスチックフィルムを少なくとも一枚挿在させて導取部外周に巻回したコンデンサ素子と、前記導取部の中空部を貫通する貫通導体を具備し、前記コンデンサ素子の一端から引き出した電極を前記貫通導体に電気的に接続し、前記コンデンサ素子の他端から引き出した電極を、前記貫通導体が電気的に非接触で貫通する貫通孔を有する導体板に電気的に接続し、前記コンデンサ素子を前記導体板にエポキシ樹脂などの絶縁物にて固定した貫通形高圧コンデンサ。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、たとえば電子レンジなどのマグネトロンにおいてノイズフィルタとして使用される貫通形高圧コンデンサに関するものである。

従来の技術

大電力の電磁波が利用される電子レンジなどでは、周波に置かれた電気機器、なかでもテレビジョン受像機などに悪影響を与える電磁波の漏洩対策が必須の課題となつている。このような漏洩を防止するため、従来より各種のノイズフィルタ用コンデンサが提案されてきた。たとえば図3図に示すように、プレス成型し焼結させて作つたセラミック材料が誘電体21として使用されている。この場合、誘電体21は常に二つの電極22A、22Bにより上下から挟まれた構造であり、周面は絶縁耐力を高めるためエポキシ樹脂などの絶縁物23が注型硬化されている。

発明が解決しようとする課題

しかしながら、誘電体21のセラミックとその周囲の絶縁物23との熱膨張係数が異なるため、ヒートサイクル試験時などにはセラミックに大きな応力が加わり、セラミックに割れやセラミックと絶縁物23の界面に隙間が生じたりしてコンデンサの耐電圧特性が低下することがあつた。これを防ぐ

特開第63-269508(2)

ために絶縁物28の厚みを均一化する工夫をせしめたり、絶縁物28を分断する工夫がなされているが、絶縁物28そのものも可撓性を付与したエポキシ樹脂などを使用し、セラミツクにかかる応力の絶対値を抑えることが必要となる。このように誘電体31にセラミツク材料を使用した高圧高圧コンデンサの場合には、本質的に応力を軽減とする絶縁低下の問題が内在しており、また注型用の絶縁物28も可撓性を付与したものを使用する関係上、コスト高となる問題があった。

本発明は、前記問題を解決するもので、ヒートサイクル時の熱応力を軽減し受けても耐電圧特性が低下しない高圧高圧コンデンサを得ることを目的とするものである。

問題点を解決するための手段

前記問題を解決するために本発明は、二つの電極間にプラスチックフィルムを少なくとも一枚挟在させて導取軸外周に巻回したコンデンサ素子を設け、このコンデンサ素子の導取軸中空部に導体を貫通し、コンデンサ素子の一端から引き出した

導線をこの貫通導体に電気的に接続し、コンデンサ素子の他端から引き出した導線を、前記貫通導体が電気的に押接触で貫通する貫通孔を有する導体板に電気的に接続し、前記コンデンサ素子を前記導体板に固定し、コンデンサ素子の周囲にエポキシ樹脂などの絶縁物を充填し、前記導体板を絶縁物で固定したものである。

作用

従来のセラミツクを誘電体として用いたコンデンサは、電気的ストレスが初期的には問題なくとも、ヒートサイクル時などの応力を繰り返し受け経時的に耐圧が低下して、セラミツクが割れたり、このセラミツクと周囲の絶縁物との界面に亀裂を生じたりして、コンデンサの絶縁耐力の低下をもたらしたのに対し、本発明のコンデンサでは、コンデンサ素子を二つの導体間にプラスチックフィルムを少なくとも一枚挟在させて巻回した巻回体構造としたため、コンデンサ素子の周囲にエポキシ樹脂などの絶縁物を充填したときにコンデンサ素子と周囲の絶縁物との間に働く応力は、従来の

セラミツクを誘電体として用いた場合のように絶縁物と絶縁物との間に働く応力よりも極めて小さくなり、さらには対向電極間の片面方向のマージンをあらかじめ必要な距離だけとつておき、対向電極間のプラスチックフィルム厚さを絶縁破壊に到らない所定の厚みに設定して電極とプラスチックフィルムを巻回すれば電極とプラスチックフィルムの構成で絶縁耐力が決まるため、周囲の絶縁物の影響によりコンデンサ素子内部の絶縁耐力が低下することはない。

実施例

以下、本発明の一実施例を図面に示すについて説明する。

図1図は本発明の一実施例を示す高圧高圧コンデンサの断面図である。図1図において、1は貫通導体高圧コンデンサで、この貫通導体高圧コンデンサ1は二つの電極2A、2Bの間にプラスチックフィルム3を少なくとも一枚挟在させて導取軸4の外周に巻回した円筒状のコンデンサ素子5を有

し、このコンデンサ素子5の導取軸4の中空部を貫通して貫通導体6が設けられ、コンデンサ素子5の下端から引き出された一方の電極2Aは貫通導体6を電気的に押接触で貫通する貫通孔7aを有する下部導体板7に、たとえば溶接、半田付けなどの方法で電気的に接続され固定される。また、コンデンサ素子5の上端から引き出された他方の電極2Bは上部導体板8にたとえば溶接、半田付けなどの方法で電気的に接続され固定される。この上部導体板8も貫通導体6に電気的に接続固定される。こうした後に、絶縁耐力の向上や耐湿性の向上のためにコンデンサ素子5と上部および下部導体板8、7の周囲にエポキシ樹脂などの絶縁物9を充填して外装し、さらに下部導体板7の下端面には外装ケース10が取付けられ、貫通導体6と下部導体板7との間の絶縁性を確保なものにしている。

また、上部導体板8より下方の貫通導体6の周囲にプラスチックやシリコンゴムなどからなる絶縁ケース11を設けて、さらに絶縁補強を行っている。

特開昭63-269508(9)

ここで、下部導体板7に電気的に接続された電極2Aをコンデンサ電極形成のあとで、さらに一回以上導出し、その上に保護フィルムを巻回し、この電極2Aを下部導体板7を介して伝達しておけば、コンデンサ素子6の外周部の大部分が保護電位で覆われることになり、従来のコンデンサ以上のレール効果を得られる。

また、コンデンサ素子6は二つの電極2A、2Bの間にプラステックフィルム3を少なくとも一枚挟ませる構造とした導通体構造であるため、コンデンサ素子6と周囲の絶縁物8との間に作用する応力は、従来のセラミックを誘電体として用いた場合のような無機物と絶縁物との間に作用する応力よりも極めて小さくなり、ヒートサイクル時などにおいてもコンデンサ素子6が割れたりすることがなくなり、さらに、電極2A、2Bの間の端面方向のマージンを必要な距離だけとつておき、プラステックフィルム3の厚さを絶縁被覆に拘らない所定の厚みに設定して電極2A、2Bと共に巻回しておけば電極2A、2Bとプラステックフィルム3との

構成のみで絶縁耐力が決まるため、周囲の絶縁物8の影響によりコンデンサ素子内部の絶縁耐力が低下することなく、フィルム特性も従来のものに比べて同等以上となり、良好な耐電圧特性を維持できる。

発明の効果

以上のように本発明によれば、コンデンサ素子6を、二つの電極間にプラステックフィルムを少なくとも一枚挟ませる構造とした導通体としたので、熱ヒートサイクル性が強く、充分なフィルム効果を得られ、良好な耐電圧特性を維持した全く新しい構造の貫通形高圧コンデンサを供給できることになり、その経済的価値はきわめて大である。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す貫通形高圧コンデンサの縦断面図、第2図は従来の貫通形高圧コンデンサの縦断面図である。

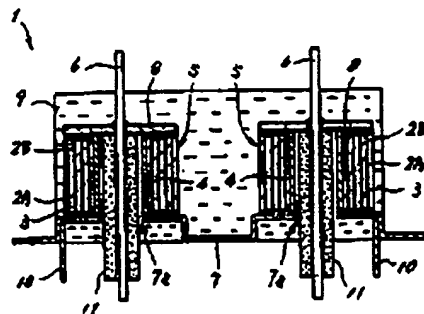
1…貫通形高圧コンデンサ、2A、2B…電極、3…プラステックフィルム、4…巻取軸、5…コンデンサ素子、6…誘電体、7…下部導体板、7a…貫通孔、8…上部導体板、9…絶縁物、11…絶縁チューブ。

1…貫通孔、8…上部導体板、9…絶縁物、11…絶縁チューブ。

代理人 鈴木 隆弘

特開昭63-268509(4)

第1図



- 1... 絶縁基板
- 2A, 2B... 電極
- 3... プラズマ処理層
- 4... 絶縁層
- 5... プラズマ処理層
- 6... 貫通導体
- 7... 下部導体板
- 7A... 貫通孔
- 8... 上部導体板
- 9... 絶縁層
- 11... 絶縁層

第2図

